

にのみやまちとしょかん 図書館だより

2008.1.15 発行

(奇数月 15日発行)

第31号



特集

星新一 ~二宮ゆかりの人物との関わり~

日本のSF小説の開拓者の一人で、ショートショートの名手として知られる作家・星新一。昨年2007年は没後10年と作家デビュー50年にあたる年であったため、星新一の名を目にする機会が多かったのではないのでしょうか。そのデビューのきっかけとなったのは、柴野拓美(図書館だより17号、20号、28号で紹介)創刊のSF同人誌『宇宙塵』でした。『宇宙塵』の草創期には星新一自身も編集や校正に直接携わっており、エッセイなどには「柴野さん」の名がたびたび登場します。また、同時代の作家・山川方夫(14号、20号で紹介)とも面識があり『山川方夫全集』発刊の際は推薦文も書いています。

今回の特集では、二宮ゆかりの人物である柴野拓美、山川方夫両氏と星新一との関わりが読み取れる文章を抜粋して紹介します。

星新一略年表

(満年齢) ([]内は関連する時事の出来事)

和暦	西暦	年齢	略歴
大正 15	1926	0	9月6日 東京本郷に生まれる 本名・星親一
昭和 19	1944	18	祖父・小金井良精逝去
20	1945	19	東京帝国大学農学部へ入学
23	1948	22	同大学卒業
26	1951	25	父・一がロサンゼルスで客死 経営する会社・星製薬を引き継ぐ
27	1952	26	代表取締役社長を辞任し副社長に
31	1956	30	日本空飛ぶ円盤研究会に入会、柴野拓美と出会う
32	1957	31	[SF同人誌『宇宙塵』創刊] 宇宙塵に掲載の「セキストラ」が『宝石』誌に転載され作家デビュー 続いて翌年『ポッコちゃん』『おーい でてこい』なども『宇宙塵』から『宝石』に転載となり、同誌の常連執筆者に
33	1958	32	星製薬取締役退任
36	1961	35	初の書籍発行(『人造美人』新潮社) 村尾香代子と結婚
37	1962	36	『宇宙塵』の5周年記念、SFマガジン同好会の発足を兼ねた会合が目黒公会堂で行われる(第一回日本SF大会) 長女・ユリカ誕生
38	1963	37	アメリカのSF誌に『ポッコちゃん』英訳掲載(翻訳・斎藤伯好) 次女・マリナ誕生
40	1965	39	[山川方夫逝去]
43	1968	42	『妄想銀行』及び過去の業績に対して、第21回日本推理作家協会賞を受賞
45	1970	44	[大阪万博] 小松左京らと国際SFシンポジウム開催
52	1977	51	[『宇宙塵』20周年を祝う会]
54	1979	53	『ショートショートの広場』編著はじまる
58	1983	57	ショートショート1001編を達成 銀座資生堂ホールにて「星新一さんのショートショート1001編をねぎらう会」開催される
59	1984	58	『足の裏』以降、良い作品が書ければ発表するというスタンスへ
平成 6	1994	68	口腔がんの宣告
9	1997	71	12月30日 逝去

「星新一以外の文章」
「星新一の文章」

柴野拓美「星新一氏と『宇宙塵』より

(『星新一の世界』p8)

…氏とはじめて顔を合わせたのは、一九五六年の秋、荒井欣一氏主宰による「日本空飛ぶ円盤研究会」の定例会の席上だった。日付ははっきりしないが、その一日、私がSFの同人雑誌を出そうという提案をしたところ、まさきに、というより、待ってましたという表情で名乗り出てきたのが星氏であった。「仲間に入れてください。星といえます。よろしく」



柴野拓美談「『宇宙塵』草創期」より(『塵も積もれば 宇宙塵40年史』p29)

…最初の頃は星さんに校正を手伝ってもらったこともあります。当時、彼がいた星製薬に訪ねて行きますと、会社自体はもう人手に渡っていたと思いますが、あの人は創業者の御曹司だから一応は副社長の肩書きを持っていて、でも特に仕事があるわけじゃないんで、副社長室でポツンとしていたんです。そこへ原稿とグラを持ち込んで、一緒に校正をやったことが何度かあります。

「江戸川乱歩全集第25巻」解説より(『きまぐれフレンドシップ』p21)

…あるきっかけで柴野拓美さんと知りあい、SF同人誌『宇宙塵』を作り、それに「セキストラ」という作品を書いた。昭和三十三年のことである。(中略)柴野さんに連れられて、乱歩さんのお宅にあいさつにうかがった。

野田昌宏 星新一追悼文より(『宇宙塵』195号1999年/NO.1 p6)

…星さんの思い出となれば四十年前、大岡山の旧柴野邸で開かれていた<宇宙塵>の例会しかない。まだ輸入も困難だったアメリカSFを読む楽しみを満喫した日々。(中略)そんな二人につきい論評を加える小隅黎……。そんなやり取りの中に、素晴らしく洗練された合の手をびたり！と見事なタイミングで入れる抜群にスマートな“若い”おじさんが、他ならぬ星さんだった。

「山川方夫全集」推薦文より(『きまぐれフレンドシップ』p198)

…彼は昭和三十五年、旧「宝石」誌に短い作品を発表。私は「ヒッチコック・マガジン」の編集長だった中原弓彦氏の紹介で知り合った。その翌年の私の出版記念会には、発起人のひとりになってくれた。(中略)銀座で飲んだことが、一回だけある。また大磯へ行った時、彼の家まで足を伸ばし、酒を飲みながらあれこれ話があった。なくなられたのは、それからまもなくである。昭和四十年二月十九日、自宅付近、二宮の道路で事故死。三十五歳。



「宇宙塵二十周年記念大会の祝辞」より

(『きまぐれフレンドシップ』p52)

…柴野さんの人柄も、欠点を含めてですが、これまたすばらしいものでした。どの作家も適当に議論しながら、自己の作風を発見確立してきました。柴野さんが問答無用の性格であっても、物わかりがよすぎても、ぐあいが悪かった。少なくとも、私に関してはそうなのであります。

参考資料:『星新一 空想工房へようこそ』(最相葉月監修/新潮社/2007/9/10.2)、『きまぐれフレンドシップ』(星新一著/奇想天外社/1980/T 31)、『塵も積もれば 宇宙塵40年史改訂版いつまでも前向きに』(宇宙塵/2006/9/10.5)、『宇宙塵 SF同人誌』(195号1999.4/T 31)、『星新一 1001話をつくった人』(最相葉月著/新潮社/2007/9/10.2)、『星新一ショートショート1001 3』(星新一著/新潮社/1998/年)、『星新一の世界』(新評社/1980)

新しく入った本 CD DVD

2007年11～12月新着分より

(著编者 / 出版社 / 出版年月 / 請求記号)

本

画像
なし

『フリーペーパーコレクション
- 全75冊大掲載! - 』
(STUDIO CELLO / '07.7 / 051.97)
東京発のフリーペーパーを中心に75種をその配布地などとともに、実物のページの一部をカラーで紹介しています。手に取ったことのあるものも入っているかも。

画像
なし

『子どもを理科好きに育てる本』
(中野不二男著 / 角川学芸出版 / '07.8 / 379.9ナ)
「理科の勉強は生活の中で役に立たない」といわれていますが、親が見方を変えてみると日常生活には「大発見」がいっぱい! 子どもと一緒に見つめてみてはいかがでしょうか。

画像
なし

『フェリー活用読本
- 気軽に楽しむ船旅ガイド - 』
(谷川一巳著 / 中央書院 / '07.8 / 290.9タ)
新幹線や飛行機は目的地への最短時間での移動手段と言えますが、移動中も楽しめるフェリーの旅を紹介しています。読むと車でなく“徒歩”でも乗ってみたいくなります。

画像
なし

『光の散歩影のおしゃべり』
(藤城清治著 / 新潟日報事業社 / '07.8 / 726.8フ)
世界的な影絵作家である著者のスケッチと影絵、そして作品一つ一つの想いを気取らない軽やかなおしゃべりでまとめたもので、人柄がにじみでている楽しい本です。

画像
なし

『さよなら、そしてこんにちは』
(荻原浩著 / 光文社 / '07.10 / 梓)
テレビの健康情報番組に振り回されるスーパーマンなど、さまざまな職業の人がシチュエーションに追い詰められていく心理を描いた7作からなる短編集です。

画像
なし

『ネクタイと江戸前 ベスト・エッセイ集 '07年版』
(日本エッセイスト・クラブ編 / 文芸春秋 / '07.8 / 914 初)
主婦・大学教授・棋士・医師・シャンソン歌手など、様々な立場の人達のちょっと笑って、ちょっとしんみりした話...時代の移ろいをとらえたエッセイ集です。

録音 CD

画像
なし

『和らぎ yawaragi
- 和楽コンピレーション - 』
(心花(ほか)演奏 / 46分 / 260円)
日本の伝統楽器を使った、新進気鋭の和楽アーティストたちの演奏が、1枚のCDになりました。その音色はどこか懐かしく、タイトル通り“和らぎ”を与えてくれます。

映像 DVD

(演奏者、出演者 / 収録時間 / 請求記号)

画像
なし

『佐賀のがばいばあちゃん』
(倉内均監督 吉行和子(ほか)出演 / 104分 / 778.1円)
少年時代を佐賀の“がばい(すごい)ばあちゃん”の元で過ごした、島田洋七の自伝小説の映画化。貧乏な生活の中でも、明るくたくましく生きる祖母との心あたたまるお話です。

展示テーブルから

1月の展示テーマ

自然科学は難しい!?

画像
なし

今月の紹介本

『世にも美しい
数学入門』

(藤原正彦・小川洋子著 / 筑摩書房 / '05.4 / 410フ)

ふう～ん

餅は、もともとは
携帯食のことだった?

現在のような「餅」は江戸時代からで、それまでは「餅」といえば固いにぎり飯のことだった。硬く握った飯が、腐らず持ち歩くのに便利だったので「もちひ」と表現し、それが短縮されて「もち」になったという。携帯食としての餅は、二枚かさねておかずをはさむサンドイッチのようなものだった。鏡餅を重ねて飾り餅にするのは、その習慣が後々まで残ったものと考えられる。その後携帯食の餅は、神の召すものと考えられるようになりお祭りになくてはならないものになった。

理数系の学力が低下している、と大きく報道されました。「数学や科学はどうも苦手だけど、普段の生活で困ることはないし.....」と思っている方も多いのではないのでしょうか? でも、身近な「何故?」がわかったら、きっと楽しいはず。

1月の展示テーブルには、数学・科学の本、数学者や科学者の伝記・物語を集めました。ご紹介するのは『世にも美しい数学入門』、『博士の愛した数式』の著者小川洋子さんが『国家の品格』でも有名な数学者藤原正彦さんに、数学の素朴な疑問を投げかけるという対論です。「数学や文学や芸術でもっとも大切なのは、美と感動だと思う」と藤原さんは語っています。わかりやすい文章で数学の面白さを伝えてくれる図書です。

図書館発見 ⇨⇨⇨ 書庫の本紹介コーナー

ベストオーダー
2007年11月～12月
この期間に予約が多かった本です

【一般書 ベスト10】

- 1 ホームレス中学生 / 田村裕
- 2 ダイニング・アイ / 東野圭吾
- 3 おひとりさまの老後 / 上野千鶴子
- 4 女性の品格 / 坂東眞理子
- 5 陰日向に咲く / 劇団ひとり
- 6 犯人に告ぐ / 零井脩介
- 7 楽園 上・下 / 宮部みゆき
- 8 探偵ガリレオ / 東野圭吾
- 9 つくもがみ貸します / 畠中恵
- 10 中原の虹 4 / 浅田次郎

【児童書 ベスト5】

- 1 王さまと九人のきょうだい
- 2 バッテリー (全6巻)
- 3 妖界への帰還 (妖界ナビルナ 2-1)
- 4 うえきばちです
- 5 天才探偵 sen - 公園七不思議 -

図書館の2階、階段を上がって左側正面に小説の棚があり、その先頭に「書庫の本紹介コーナー」があります。図書館では、平成18年10月から「書庫の本紹介コーナー」を設置しました。このコーナーでは、地下書庫に収蔵されている小説を3ヶ月ごとにテーマを決め入れ替えています。

日々増え続ける本を、スペースに限りのある開架の棚にすべて並べておくことはできません。そのため、小説に関しては出版年度の古いものから選んで地下書庫に移動しています。地下書庫には現在約7500冊の小説が収蔵されています。しかしいったん書庫に入ると一般の方の目に触れる機会がなくなってしまうため、なかなか利用されにくくなるのも事実です。そこでこのコーナーが誕生しました。

昔読んだ懐かしい本を手にして昔の記憶がよみがえったり、こんな作品があったのかと思うような本との新たな出会いがあるかもしれません。今まで紹介された本のリストもありますので、興味のある方はカウンターでおたずねください。

《今までの紹介テーマ》

- 2006年10月～12月…… 『時代小説』
- 2007年1月～3月…… 『芥川賞・直木賞』
- 2007年4月～6月…… 『時代小説 女性作家編』
- 2007年7月～9月…… 『戦後30年のベストセラー小説』
- 2007年10月～12月…… 『青春小説 - 五木寛之、北杜夫、椎名誠、星新一』
- 2008年1月～3月…… 『歴史小説 - 戦国武将編』

二宮ゆかりの人物

たなはしはんぞう
棚橋半蔵 (日本サボテン界の先覚者)

はじめに：図書館だより26号で紹介した松本氏の著書の中で棚橋半蔵のことを知り調査を開始しましたが、現時点では棚橋氏に関する確実な資料が少ないため、調査は現在も続行中です。

海を見下ろす丘の上に HANZO TANAHASHI とローマ字で小さく書かれた表札とは対照的なバカでかい洋館が建っていた。ドイツ系混血児ハンゾ棚橋の別荘であった。洋館に沿って浜端道が細く長く続きその先端は海岸まで延びていた。

(「二宮の昔話」松本昇平著所収 異人なすより)

棚橋半蔵は、日本のサボテン界の資質向上を目指して渾身の努力を払った希有の人物で、二宮でわが国初のカクタス(仙人掌)ロックガーデンを造った人物です。

半蔵は1885年(明治18年)にベルリンで駐独日本大使館の外交官だった父軍蔵と、ドイツ人の母との間に生まれました。母親の実家のドイツのマグデブルグではサボテン栽培が盛んであり、幼少の頃から親しんできたことが、サボテン研究のきっかけではないかと考えられています。

1910年(明治43年)半蔵は25歳の時に来日し、気候温暖な二宮の梅沢に居を構えました。そして相模湾に面した自邸の庭の緩斜面で、天然の地形を生かしたサボテンの栽培を始めました。半蔵のサボテン収集はあくまで学術的なものでした。異なった和名の調査、学名と和名の対照、学名不明種の究明など、現物を携えて各地の業者や栽培家を幾度となく訪問し、その研究に全力を注ぎました。1911年に一度ドイツへ戻りますが、1914年再び来日するまでの間ドイツから数々の珍奇種を日本に送りました。その中には、丈夫な品種の「新天地」と呼ばれるサボテンなど日本初渡来の品種もありました。それらを管理する三棟の温室、五つの大フレームは二宮仙人荘と呼ばれ、当時の新聞には

「二宮には棚橋半蔵氏の仙人掌温室数十坪あり、種類は八百種、数は三千余の多きに達す(略)温室を経営して百花爛漫。」(1917年(大正6年)12月27日横浜貿易新報(現神奈川新聞)温室便りより)と記され、大規模な様子が伺えます。

1917年半蔵はドイツに帰国しますが、この年半蔵の熱心な研究の成果として横浜植木(株)から『仙人掌及多肉植物名鑑』が刊行されました。これはサボテン界にとって当時最も整備された画期的な労作となりました。これらの功績は、日本カクタス専門家連盟の記念誌『日本サボテン史』に「先覚者 棚橋半蔵」の項目で紹介されています。

冒頭で紹介した引用文では、大正初期の徐々に高まる第一次世界大戦への社会不安の時代背景下で、混血の棚橋半蔵の身の回りで起こる二宮の様子や、当時「異人なす」と呼ばれ日本ではまだ馴染みがなく、一般的に食べられていなかったトマトをめぐる半蔵と二人の少年との小さな事件が書かれています。



左：『日本サボテン史』
右：『サボテン今昔』

このコーナーでは、二宮にゆかりのある人物や文学作品等をご紹介します。ここで紹介された人物や作品関連の情報がありましたら、図書館までお寄せください。

参考資料 『二宮町近代史話』(二宮町教育委員会編/二宮町/1985/NG B6) 『日本サボテン史』(日本カクタス専門家連盟編/日本カクタス専門家連盟/1990/NY 外) 『二宮の昔話』(松本昇平著/伊勢治書店/1996/NY 79) 『趣味の仙人掌栽培』(石井勇義編/誠文堂/1931) 『仙人掌及多肉植物名鑑』(横浜植木(株)/1917) 『サボテン放談』(伊藤芳夫著/朝日新聞社) 「Web サボテン今昔」(<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~websabotenkonjaku/>)

お知らせ・お願い

二宮町図書館ホームページの地域資料のページをご覧ください！

地域資料のページでは、今まで図書館だよりで紹介した「二宮ゆかりの人物」の滞在期間がわかる一覧表や年表、滞り場所がわかる地図を掲載しています。随時、更新していますのでその他の情報と併せてぜひご覧ください。

地域資料コーナーの展示ケースで初公開！

1月～3月の展示ケースは「二宮ゆかりの人物 塩崎彦市」で、交友のあった棟方志功や川田順からの書簡（蘇峰記念館より借用）を初公開しています。ぜひご覧下さい。

雑誌のリサイクルコーナーをご存知ですか？

毎月第4日曜日の9時45分から、図書館入口脇で、保存期限の過ぎた雑誌を無料で提供しています。毎回ご好評いただいております。ぜひ一度のぞいてみてください。（一人3冊以内、雑誌が無くなり次第終了です）

下記雑誌の保存期間を1年から2年に変更しました

「オレンジページ」「ESSE」「すてきな奥さん」

利用者の声Q&A

Q：CDケースに「解説書あり」となっていますが、解説書らしきものは入っていませんが？

A：二宮町図書館では、CD・カセット・ビデオ・DVDについているものは歌詞カードや解説などに限らず、曲目リストなどもすべて「解説書」と呼んでいます。解説書には番号シールが貼ってあります。貸出・返却の際にはご確認ください。

行事

くわしくはお問い合わせください。

■ 休館日

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

 第2水曜日
(2月は第1水曜日)
ちいちゃいおはなし会

 第3土曜日
おおきいおはなし会 小学生から
おはなし会とおりがみあそび

 第3金曜日
(3月は第2金曜日)
わらべうたであそぼう！

 第4日曜日
雑誌のリサイクルコーナー

にんぎょうげき大会

3月に予定しています。詳細は3月号のお知らせ版及び館内掲示等でご案内する予定です。お楽しみに！

展示テーマ

12月 | 一般 / 『2007 千の風になって』
| 児童 / 『クリスマス』
| A V / 『I wish you a merry Christmas!』

1月 | 一般 / 『自然科学は難しい！？』
| 児童 / 『ねずみ』

特設展示

11～12月・・・『クリスマス・年末・お正月特集』

12～1月・・・『天璋院とその時代』

地域資料コーナー 展示ケース

1～3月・・・『二宮ゆかりの人物 塩崎彦市』

書庫の本紹介コーナー

1～3月・・・『歴史小説 戦国武将編』

ひとつだけ ～編集後記にかえて

8月に北京オリンピックが開催されます。大会マスコットが面白く、夏季・冬季通して最多の5体。魚の「ペイペイ（貝貝）」、パンダの「ジンジン（晶晶）」、オリンピック聖火の「ホァンホァン（歓歓）」、チベットカモシカの「インイン（迎迎）」、ツバメの「ニイニイ（妮妮）」は、それぞれ五輪マークの輪の色に相当するそうです。すべての読みを合わせた「ペイジンホァンインニイ」は、中国語で「北京へようこそ」という意味になります。5体まとめた愛称は「フーワ（福娃）」、北京オリンピックのスローガンとして「一つの世界・一つの夢」と掲げているように、世界が一つになり、平和の為にひとりひとりに何が出来るかを考えさせられる年になりそうです。

編集・発行 二宮町図書館

住所 二宮町二宮1240-10

☎ 0463-72-6913

ホームページ <http://www.ninomiya-public-library.jp/>

 図書館だよりテープ版もあります！お問い合わせください。

